

議 長	会議を再開します。 (午後 3時15分)
々	これより、本山議員の一般質問を行います。4番本山議員。
4番 本山議員	<p>4番議員、本山でございます。9月定例会最後の一般質問でございます。もうしばらくお付き合いをお願いをいたします。</p> <p>町民の皆様の生活に直結する問題について、2項目についてお聞きをいたします。効果的な対策を講じることで、地域全体の安全と健康を守ることに繋がると考えております。</p> <p>まず、1項目めですが、带状疱疹ワクチン接種に関して質問をいたします。带状疱疹は、50歳以上になると発症率が高くなると言われております。80歳までに3人に1人が带状疱疹を経験すると言われております。さらに、高齢になると、神経痛などの合併症を引き起こすリスクが高まり、その後、後遺症に悩まされる方が多くございます。さらに、コロナ禍を過ごしてきたことや、昨今の異常気象などにより、高齢者を取り巻く生活環境には多くのストレス要因が存在します。これらの要因が、今後さらに带状疱疹の発症のリスクを高め患者数の増加につながることを懸念されております。带状疱疹は、予防接種によってその発症を防ぐことが出来ます。しかし様々な理由でワクチン接種を躊躇する方が多いのも現状でございます。このままでは予防可能な疾患によって、高齢者の皆様方の生活が損なわれかねません。そこで、高齢者が健康に社会生活を送ることが出来ますよう、次の質問をいたします。</p> <p>1つ、带状疱疹ワクチン接種の効果を町としてどのように認識されているのか。</p> <p>2つ、接種の推奨により、将来的な医療費削減にもつながるのではないかと考えるが、町の見解を問うものでございます。</p> <p>3つ、津和野町をはじめワクチン接種費用の助成を行っている自治体もあるが、町の方向性はどうか、問うものでございます。</p> <p>次に、2項目めでございます。度々の質問となりますが、鳥獣対策事業であります。現在進められている、ICTを活用した有害鳥獣対策可能実証事業の対策は、そのまま進めていただきたいと考えておりますが、現場である地域では、被害が深刻化しているとの切実な声が寄せられております。行政が、この実情を十分に認識し、迅速かつ適切に対応しているのか疑問を感じるところがあり、以下、質問をいたします。</p> <p>地域の今の被害状況の認識について問うものでございます。</p> <p>2つ目、地域の声の収集と政策への反映について問うものです。</p> <p>3つ目、短期的な被害軽減策の検討と実施について問うものでございます。</p> <p>以上、2項目について質問をいたします。よろしく願いをいたします。</p>
議 長	それでは、本山議員の質問のうち、1項目め「高齢者の带状疱疹ワクチン

議 長

接種補助の必要性と方向性について」に対する答弁を求めます。

番外高砂健康福祉課長。

番外高砂健康福祉課長

本山議員ご質問の「高齢者の带状疱疹ワクチン接種補助事業の必要性と方向性について」にお答えします。

質問の1項目め、「带状疱疹ワクチン接種の効果をどのように認識しているか」についてお答えします。带状疱疹とは、疱疹ウイルスに初感染し、いわゆる水疱瘡にかかった後、体内の神経節に潜伏しているウイルスが、加齢、疲労、ストレスなどによる免疫力の低下によって、再活性化して起こる病態です。加齢がリスクと言われ、50代以降で罹患率が高くなり、70歳代がピークと言われており、合併症として皮膚病変が治癒した後に、疼痛が残り数か月から数年持続する「带状疱疹後神経痛」などがあります。予防には、現在、国で承認されている2種類のワクチンがあり、それは乾燥弱毒性水痘ワクチン、いわゆる「生ワクチン」と乾燥組替え带状疱疹ワクチン、いわゆる「不活化ワクチン」というものです。現在、国において定期接種化に向けて、ワクチンの有効性、安全性、費用等が検討されているところですが、国の資料によると、「生ワクチン」については、接種後4から7年間で、带状疱疹発症が39.6%、带状疱疹後神経痛発症が60.1%減少、接種後7年から11年では、带状疱疹発症が21.1%、带状疱疹後神経痛発症が35.4%減少すると言われております。また、60歳以上の176,078人を対象とした研究では、接種後1年以内の带状疱疹発症阻止効果が68.7%ですが、接種8年目では、その効果は4.2%に低下したとの結果が出ています。一方、「不活化ワクチン」については、日本を含む18か国で実施された組替えワクチンの臨床試験のフォローアップ調査によると、2回目接種後の追跡期間が、1年目の带状疱疹予防効果は97.7%、2年目が92.7%、3年目は92.4%で、10年後でも73.2%の発症防止効果があると結果が出ております。ワクチンは、带状疱疹及び带状疱疹後神経痛発症のリスクを低減すること、带状疱疹の発症期間を短くすること、加えて重症化予防について効果があるのではないかと認識しております。

質問の2項目め、「接種の推奨により、将来的な医療費削減につながるのではないかと考えるが、町の見解を問う」についてお答えします。

带状疱疹等に係る医療費の算出につきましては、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律、いわゆる感染症法に基づく届出対象の疾患に带状疱疹が含まれていないため、患者の発生状況の把握は出来ておらず、また、加えて医療費の統計等もないため把握につきましては困難ですが、一部の研究では、1人あたりの医療費は高額であり、国内全体でも相当の額の医療費がかかっているのではないかと推計結果も出されています。ワクチン接種によって発症が大幅に減少すれば、やはり医療費の削減にはつながるのではないかと考えております。

質問の3項目め、「津和野町をはじめワクチン接種の接種費用の助成を行

番外高砂健康福祉課長

っている自治体もあるが、町の方向性を問う」についてお答えします。

全国的にワクチン接種の助成を行う自治体は増えており、議員ご指摘のとおり、県内では、吉賀町が令和5年度、津和野町が今年度から助成を行っております。全国では、2024年5月時点で約650の自治体が行っております。国においても、定期接種化に向けた動きも検討されておりますが、現在は、保険適用外であるため、1回あたり1万から3万円程度する高額な接種費用が自己負担となっている状況です。今後、町内の罹患状況や、国や他の市町の動向も踏まえながら、高額な接種費用の一部を負担する場合の予算面も含め、ワクチン接種費用の助成に向けて検討してまいります。

議 長

4番本山議員。

4番  
本山議員

今、町がですね思っているワクチン接種の認識ということをお聞きしたわけでございます。まず最初に言うておきますけども、これ単にですね、新聞等テレビ等で、ワクチン接種の推奨が薬局ですか、薬局じゃないですね、薬をつくる会社ですね、そういうところが今、一生懸命宣伝をしておりますけども、それで私この質問をするわけではないです。現に町の中で、本当に苦しんでおられる方がおられるということをまず頭に置いて聞いていただきたいということでございます。今、数値をもって、詳しく回答いただきましたけども、これは私が調べたのと同じです。これはパソコン見れば、このデータぐらいすぐ出てきます。ですが私が聞きたかったのは、この带状疱疹ワクチンの効果を本当に町のほうで、どのぐらいの意識を持って、認識しておられるか。その部分を聞きたかったわけでございます。例えばですね、課長、町の中で、周りで带状疱疹にかかったというような話を聞いたことありませんか。

議 長

番外高砂健康福祉課長。

番外高砂健康福祉課長

そういった話も伺っておりますし、実際、私もちょっと出てくる傾向にあるので、そこら辺症状がある方がおられるというのは、把握しております。

議 長

4番本山議員。

4番  
本山議員

確かに今課長言われましたようにですね、この中でも带状疱疹、発症した方、多分おられると思います。中には、何かチクチクするぐらいで分からなくて、症状があんまり表にでなくて知らないうちに治っておられるという方もおられると思います。このワクチンですけども、ワクチンを接種すれば発症が抑えられるというデータというのは、もう国のほうでもある程度持っております。そういう観点から、町のほうでもこの認識を深めていただきたいという意味合いで、まずお聞きしたところでございます。まずもってです

4 番  
本山議員

ね、2種類のワクチンがあると言われました。そして不活性（正：不活化）ワクチンのほうが効果が高い、ただ生ワクチンは体調によっては打てないこともありますので、不活性（正：不活化）ワクチンのほうが打ちやすいということでございます。それで、長期的な予防もできるということでございます。今の課長のお話で、带状疱疹ワクチンの効果については、皆さん方も理解をしていただいた。そして町のほうも一定の認識を持っていただいているという、今、認識を持ってこれから話をしてまいります。先ほども本町の高齢者の皆さん方、带状疱疹にかかって大変苦しい思いをしている、そういう話もしましたけども、この予防の観点からですね、具体的な検討が必要というふうに私は思います。まず効果は認識をされておりますけども、もう一つこれに対して副作用というのものもあるわけでございます。副作用に関しましては、これも調べればすぐ出てくることなんですけども、注射部位の痛みとかですね、腫れとか、ちょっと赤みとか筋肉痛とか、疲労、頭痛、そういうことが出てくるんですけども、重症化すれば失明、そして難聴、顔面麻痺、そして体の中の神経痛、後遺症が残る恐れがある、ということで予防接種の重要性が高まっているということでございます。ちょっと調べてみますと、国のほうでも带状疱疹の予防ワクチンを定期接種するという、定期接種を公費負担として方針を固めたというような記事も出ておりました。これは65歳以上を軸に検討を進めているということでございますけども、予防接種、国のほうもいかに大事であるかということもおりますけども、ただこれがいっになるかということはまだわかりませんので、何とかですね国の方針が出るまででも、町のほうで良い方向、方向性を向いていただきたいなというところでございます。それではですね、次の質問なんですけども、推奨です。町として、この带状疱疹ワクチンが如何に接種することによって、高齢になっても元気でおられるという意味を持ってですね、このワクチン接種の推奨について、もう一度、さっき回答の中では多分、推奨するとかせんとかそういう話はなかったと思いますが、この推奨についてはどうでしょう。

議 長

番外高砂健康福祉課長。

番外高砂健康福祉課長

推奨につきましては、先ほど議員も言われたような後遺症とかそういった課題もあると思います。その部分について、国のほうで定期接種化に向けていろいろと研究やら、議論を重ねられている状況だと思います。ただその一方で、議員言われるように早く接種の方をつなげていくべきじゃないかというご意見、また全国的にも自治体のほうでも、新たな取り組みをしている自治体というのは増えていることも把握はしております。実際、実情、川本でどれぐらいの方がそういったことで苦しんでおられるか、そういったところの話っていうのは、確かに带状疱疹その出る部位によって、すごく影響があるということも聞いております。そこら辺、もう少しうちの中でもちょっと情報を聞きながら、ちょっと医療機関のほうにも聞いたりしながら、その点、

番外高砂健康福祉課長 実際の本当に統計的なもの取れてないので、実際ちょっといろいろと聞き取りとかそういったことをしないと、なかなか情報がとれないかなと思うんですが、そういったところから今後検討してまいりたいと考えております。

議 長 4番本山議員。

4番 本山議員 なぜ推奨するかということは、重症化した場合ですね、高額な医療費がかかるということでございます。まずこの高額な医療費がかかるということは本人にとっても負担ですし、町にとっても大きな負担になってくる部分だろうと思います。町としてはですね、このワクチン接種の推奨をしながら、医療費を削減するという方向も一つの考え方だろうというふうに私は思います。将来的な医療費の削減を視野に入れた予防策の推進というのは、町の財政健全化等にも寄与する重要な方策であるというふうに私は考えますので、具体的な推奨策や実施体制についてですね、検討していただきたいというふうに思います。先ほど町内における高齢者の帯状疱疹の発症データがないということ、困難だというふうに言われました。私は加藤病院のほうにお願いしてですね、忙しい時間を割いていただきまして接種された方の人数と、年齢と、その接種された日付というのをいただいております。ちょっとここで紹介したいと思うんですけども、令和21年、22年、23年、24年、4年分を出していただきました。加藤病院からいただいた資料で言いますとですね、2021年の10月から2024年の5月までですが、ワクチン接種をされた方はね、この間で19人です。4年で19名。年齢は54歳から89歳の方が接種されております。ワクチンの内訳としては、不活化ワクチンがシングリックスっていうんですけども14名。生ワクチンが5人でした。シングリックスは2か月間、2か月程度あきで2回接種が必要ですので、費用は病院によって違うということですけども、加藤病院の場合ですね、2回やって45,814円かかります。生ワクチンは1回で済むんですけども、8,727円かかるということでした。全国的に平均しますとですね、生ワクチン1回の接種で約6,000円から8,000円、シングリックス、不活化ワクチンですと、2回の接種で1回当たり2万から2万5千円ですので4万から5万円かかるということでございます。これは加藤病院からいただいた資料でございますが、まだ邑智病院とかですね、他の病院で接種を受けた方もおられるかと思いますが、この今、私が言ったデータを持ってですね、課長どのようにお考えになります。

議 長 番外高砂健康福祉課長。

番外高砂健康福祉課長 町内での人数ですので、ある程度関心を持たれてる方はおられるのかなというのは感じたところです。実際、津和野と吉賀のほうに接種されてます。そちらのほうに話を聞いたところ、吉賀町につきましては5年度から始めら

番外高砂健康福祉課長 　　れて昨年度、今年状況まででいきますと、先ほどの不活化ワクチンのほうが50件、生ワクチンのほうが28件ということでやっておられます。実際、その補助額というのが、吉賀町につきましては、1回1万円ですので、2回接種必要になるので、50件ということであれば100万円近くという経費になるかと思っております。津和野のほうにつきましては、まだ今年始められたばかりなんですけど、やはり接種のほうは、これは回数なんですけど、不活化ワクチンのほうで66回ぐらいされてるということをお聞きしました。どうも病院のほうから進められていることも多いということで、割と利用というか、そういったことが多いなという印象を持たれてるということをお聞きしました。ですのでそういった情報も踏まえながら、今後検討してまいりたいと考えております。

議　長 　　4番本山議員。

4番 本山議員 　　確かに課長のおっしゃられるようにですね、多分病院からこれを受けたほうがいいよと言われて、受けられた方のほうが多いと思います。自分から予防のためにですね、ワクチンを受けたという方は、非常に少ないと思います。この4年間で、19人という数字ですけども多いか少いかと言えば何か少ないような気がします。これほど高齢化したこの川本町で、带状疱疹も経験した方がたくさんおられる中で19人ということですので、少ないとは思いますが、やはりこれはですね、この町がやっぱりこれをしたほうがいいよというような推奨もしてないしですし、病院から言われるままに、これは将来的にひどいことになるからしたほうがいいよと言われての方のみが多分されておるんじゃないかなというふうに思いますので、是非ともですね、推奨策もいろいろ考えていただきたいというふうに思います。

　　それでは次ですけども、これが1番私の最後1番の大事な質問ということでございます。先ほど課長もお答えいただきましたけども、結構この接種費用が高いということ、5万から8,000円、1万円ぐらいの中でございまして、他の自治体で助成をしておる。そして先ほど吉賀町50件ぐらいと言われました。随分、打っておられる方が上がっているなというふうな印象を受けたところでございますが、川本町としても高齢者の健康を守って医療費の抑制をするために助成を行うこと、これ重要な施策の一つだと考えますが、この点についてですね、町として方向性は何か考えられたことがあるのかどうか、それをちょっとお聞きします。

議　長 　　番外高砂健康福祉課長。

番外高砂健康福祉課長 　　今回議員からこういうご質問いただいて、改めていろいろとお調べさせていただいて、確かに今までわからなかった部分とか、いろいろ必要性についても、非常にどういうんですか知識として得ることが出来たなということ

番外高砂健  
康福祉課長

考えております。必要性については分かっておりますが、実際、今日新聞にも出てたと思いますが、新型コロナウイルスの接種についても、国が補助金をなくすんじゃないかみたいな、そういったことも出ております。その他にもそういったワクチン接種について、新たに定期接種化に向けての動きもある中で、先ほど言いましたように、町としての負担もかなり大きいというところもございます。そういったところも踏まえながら、今度、新年度に向けて、内部でよく検討してまいりたいと。限りのある予算ですので、そこら辺はしっかりと検討してまいりたいと考えております。

議 長

4番本山議員。

4番  
本山議員

今日の最初の1番最初の木村議員の質問の中ででもですね、介護予防とか生きがいつくりを推進して、というようなこともあって、課長が行政などの地域のネットワーク等々を高めていというような話もされたわけですので、そういうことも含めながらですね、他の自治会の参考例も入れながらですね、より具体的な助成策を検討していただければというふうに思います。この川本町の具体的な対策、施策に期待をしておるところでございます。そこで最後に、ちょっと町長にお伺いしたいと思っておりますけれども、国としてですね帯状疱疹ワクチンに関する全国的な補助制度や接種の推奨策は、まだ策定されていません。厚生労働省など国の機関ではその有効性について一定の評価をしています。高齢者に向けての予防接種等、インフルエンザや肺炎球菌のように、将来的には帯状疱疹ワクチンについても、国として対策が強化される可能性が大きいというふうに思います。この国の動向も踏まえて、川本町としても準備を進め対応策を考えていただきたいと考えます。現に町なかで先ほども言いましたように、本当に苦しんでおられます。ちょっと口で言うのも、難しいんですけども、本当に大変な状況を持ちながら生活しておられます。特に単身の高齢者の方が、川本の中には大変多くなってきておまして、そういう方が1人で自立して生活をしようと思いと、こういう感染症にかかりますと、本当に自立出来なくなるんですよ。そういうことを考えますとですね、本当に医療費の削減ということに関しましてはね、本当に有効になるというふうに私は思っております。正確な疾患数というのはわからないんですけども、相当数の方がおられるというのは想像にかたくないというふうに思います。この人口減少、そして出生率が上がらない中でですね、高齢者の寿命が格段に伸びてですね、この人口減少の急激な落ち込みというのを抑えてきたというふうに私は思っております。そういう観点からもですねこの件、高齢者の健康維持に関しましては大きな人口対策の一つだというふうに私は思っております。町独自の助成導入について、ちょっと町長のご意見をお伺いしたいと思っております。

議 長

番外野坂町長。

番外  
野坂町長

このですね議員ご指摘の带状疱疹ワクチンについてはですね、国の情報です  
ね厚生労働省の情報を見ますとですね、これはそれぞれ厚生労働省所管施  
策のですね、医療審議会があってさらに分科会等が出来ていまして、このワ  
クチン所管の分科会を見ますと、先ほど課長も報告しましたようなですね、  
調査結果なんかがこの審議会の中に入っております。正式にはですね、決定  
はされていない段階だと思いますが、この審議の結果あるいはですねその辺  
の方向性を恐らく定期接種化されてくるように制度化されるのではないかと  
見込んでおります。関連して申し上げておきますと、給食費の無償化の議論  
のときにですね国は6月に、こども未来戦略というのを挙げてですね、結果、  
給食費の無償化はですね、補助財源としてはきませんでした、地方交付税  
にですね、子ども子育て費を費目として正式に立てて、この町にはですね、  
昨年度にして、その費目が3千万円ですか、3千万円ですね、子ども子育て  
増額分、これが交付税できております。この国のですね仕組み、ひょっとす  
ると恐らく交付税に検討されるのではないかなと思っております。全国を見  
まして約3分の1の自治体が既にもう、助成に向かっているという実情、そ  
れから議員がおっしゃいました実情ですね、さらにですね医療費削減に効果  
があるということであればですね、仮に国が来年度そういう補助もしくは交  
付税に盛り込んでくれなくても、先行して助成を打つということがですね、  
将来、町にとってもですね、何よりも町民の皆さんにとってもとても有効な  
策であると、現時点で私このように考えますので、これにつきましては、前  
向きに、予算化に向けて検討に入りたいと考えております。

議 長

4番本山議員。

4番  
本山議員

はい、ありがとうございます。将来的な医療費の削減、そして町の財政健  
全化、そういうものにも十分寄与する施策だと思いますので、これからの補  
助策、実施体制について議論を深めていただけることを期待しております。  
この質問は以上で終わります。

議 長

以上で、1項目めの「高齢者の带状疱疹ワクチン接種補助の必要性と方向  
性について」の質問を終了します。

々

次に、2項目めの「鳥獣被害に対する現行対策の進捗と地域実情の認識に  
ついて」に対する答弁を求めます。番外名原産業振興課長。

番外名原産  
業振興課長

本山議員の2項目め、「鳥獣被害に対する現行対策の進捗と地域実情の認  
識について」にお答えします。

本町におきましては、鳥獣被害、とりわけサルによる被害が深刻化してい  
ることから、実効性のある対策として、令和4年度よりICT情報通信技術  
を活用した有害鳥獣対策可能性調査事業に取り組み、現在、2つのサルの群

番外名原産  
業振興課長

れに発信機を装着して、蓄積された行動軌跡から効果的な場所にICT大型捕獲檻を設置し、効果的な捕獲によりサルの個体数の削減を図ること、あわせて、サルの位置情報共有システムを導入し地域主体の追い払いを進めていきたいと考えております。

議員お尋ねの1点目「地域の被害状況の認識について」ですが、前述の有害鳥獣対策可能性調査において、サルの群れの調査にあわせ、被害状況について地域住民や自治会へのヒアリングを行っております。有害鳥獣駆除班の駆除数から推察する出没数は、サル32頭、イノシシ92頭、シカ2頭で、サルとイノシシを合わせた水稻被害は、農業共済によると被害金額167万円余り、被害面積172.5アールとなっております。また、数字では出てこない被害につきましては、地域の方からその都度状況をお聞きし、被害状況の把握に努めております。このような状況をもとに、猟友会で組織する有害鳥獣駆除班とともに対策を検討し、取り組んでいるところです。

次に、2点目の「地域の声の収集と反映について」お答えします。

農林業の所管業務で地域へ出向く機会がございますので、その都度、鳥獣被害について多くの声をいただいております。また、まちづくり意見交換会や有害鳥獣対策可能性調査事業での報告会等を通じ、お受けした要望を踏まえ施策に反映できるよう努めております。

3点目の「短期的かつ即効性のある対策の検討・実施について」お答えします。

鳥獣被害対策における短期的かつ即効性のある対策は、有害鳥獣駆除班による駆除または捕獲檻の設置がありますが、体制面から限界があり、大々的に行うことは困難です。一方で、地域ぐるみの対策が効果的と言われており、農地や住家に近づかせないないため、侵入防止用の柵の設置のほか、誘因となるエサ場をなくすことが重要です。管理されていない果樹のほか、農作物の収穫残渣や生ゴミなど、身の回りの思わぬものがエサになりますので、こうしたものの排除が効果的です。引き続き、研修会や広報活動等を通じ、地域の皆様とともに、出没地域を点検し、被害の防止・軽減に向け取り組むとともに、より効果的な対策を検討してまいります。

議 長

4番本山議員。

4番  
本山議員

それでは、お伺いをしてまいります。現在、本町ではICTを活用した有害鳥獣対策の可能性を探る実証事業が進められていることは承知をしております。今年の冬に始めて檻を設置する段階であるということでございます。効果とかですね、評価を今お聞きする段階ではないというふうに思っておりますが、この実証事業が行われている間もですね、現場からは有害鳥獣による被害が深刻化しているという声が寄せられております。特に今年はですね、豚熱によって減少していたイノシシも相当増えておると聞いております。先ほどその都度状況をお聞きして被害状況の把握に努めるとお聞きしましたけ

4番  
本山議員 ども、この地域の被害実情はですね、今課長がおっしゃられたものよりも少し厳しいもんじゃないんでしょうか。そこのご認識もう一度お伺いします。

議 長 番外名原産業振興課長。

番外名原産  
業振興課長 はい、現状の認識についてお尋ねをいただきました。その都度地域のほうに出向いてお話を聞く機会があるというふうに先ほど答弁のほうで申しましたけれども、今年度で言いますと、農業のほうで地域計画というものを策定のほうが義務づけられておまして、今、集落のほうに出向いてですね、お話をする機会がございます。特に中山間地域の直払い制度での集落協定のほうにお邪魔する機会がありまして、十数地区にですねお伺いしてお話を聞く機会がございました。やっぱりそこで出てくるのが、有害鳥獣対策について困っているというお話を聞いております。先ほどサルとイノシシもございましたけれども、それ以外にもヌートリアですとか、最近で言えばクマも出ておりますし、そういったいろんな個体がございますので、取りあえず困ってるって話には、私も令和3年度からは担当課長として来ておりますけど、ずっとお伺いしておりますので、年によって、豚熱による影響等もございまして昨年度イノシシのほうは少なかったようなことで認識しておりますけれども、そういった声は逐一、産業振興課のほうに届いてまいりますので、職員もですね、回るだけではなくて、場合によっては個体の処理ということで、日によっては何回も出向くこともございますし、クマも錯誤捕獲というものがありまして、間違っって捕らえられてその対応に追われるということもございまして、そういったところはですね、私ども職員がもう痛いほど身に染みて感じてるところでございます。以上です。

議 長 4番本山議員。

4番  
本山議員 それじゃ最近、昨年よりもちょっと被害状況が多くなってきとるという認識はあるんですね。

議 長 番外名原産業振興課長。

番外名原産  
業振興課長 特にイノシシにつきましては、豚熱の影響からまた若干ちょっと増えているのかなという気はしております。先週末も私ちょっと朝、早朝、走っておいりましたら河原の方で、大きな個体がウリ坊とともにですね走っておいりましたので、やっぱまた出てくるのかなというふうに思っておりますし、サルについては、これは猟友会さんからの情報ですけれども、群れではなくて離れザルですか、こういったものが結構悪さをしているということをお伺いしまして、猟友会のほうでもいろいろ対応を検討されというふうに伺っております。以上です。

議 長

4 番本山議員。

4 番  
本山議員

担当課の皆さんのですね取り組みは全然否定するものではありません、評価はしております。ですがですね、町民の皆さんの期待にこたえるためにはですねどうしたらいいか。ちょっと私もちょっと視点を変えてお尋ねしたいと思いますが、町民の方々と話す機会が多いというお話でした。そうした中では、こうすればもっと効果的になるのになあとか、具体的なアイデアとか、意見、様々出るとは思いますけども、これらの声は現場の課題を解決する上で非常に重要なものだと考えますが、担当課、そこでですね担当課としてですね、町民の皆様方とこういう取り組みをすれば、よりよい効果が得られるんじゃないかと、何か感じるようなことがございますか。

議 長

番外名原産業振興課長。

番外名原産  
業振興課長

川本町内で言いますとりわけ農振地域であります三原地域のほうはかなり被害が多いということで伺っております、先ほどのGPSのほうを装着してサルの行動域を調査してることを申しましたけれども、こういった追い払いのですね研修に合わせて、専門家である、専門組織である里地里山研究所というですね有害鳥獣対策に取りわけ知見のある団体に講師に来ていただきまして、追い払いの研修に併せていろんな意見交換会をやっております。こういった中で、いろんな情報等もお伺いしてですね、こうやったらいいんじゃないか、やったらいいんじゃないかというような話を、その場でしたというふうに伺っております。以上です。

議 長

4 番本山議員。

4 番  
本山議員

そうですね、そういう現場での声というのは、大変貴重な声だと思います。些細な言葉でもですね、やってみる価値というのはあるかと思います。ぜひですね町民の皆様から出る意見というのには、そういう可能性を持ってですね、やってみるということも一つだろうというふうに思います。実証事業、そして現場からのフィードバックも大切にしているというお言葉でした。しかしながらですよ、現場の声は厳しいですよ。地域の方々からはですね、この前のICTのサルの調査もですよ、時間かかり過ぎてるとかね、その間に被害拡大しとるんじゃないとか、そういうことを声が出ております。早急な対策を求める行為というのは大変強うございます。現場と行政の連携でですね、まちづくりの意見交換会、そして鳥獣この実証実験の報告会など、意見収集もするのも結構ですけども、要望に対してはですね、もう少し真摯に町民の皆様の声を受け止めて、何かの行動をとらんと聞くばかりで何もしてないじゃないかと言われるような状況になってるんじゃないかなというふうに私は思います。確かにですね動物相手得手強い、特に産業振興課、他に

4番  
本山議員 そうですねこの防護柵の設置の仕方とかですね、助成制度も十分やっておられるのは分かっておるところでございますけれども、何かですね、何かこう現場と一体感がないように感じるんですけども、その点どがあに（＝どういうふうに）思っておられます。

議 長 番外名原産業振興課長。

番外名原産業振興課長 先ほど申しましたように、対策のほうは講じているつもりではございますけれども、やはりなかなか結果が出てないというところでございますと、やはり頻度、回数が少ないのかなというふうに思っております。やはり限られた人員で、限られたことしか今出来ないような状況の中でですね、いろいろと工夫しながらですね、やっていく必要があるあるかなというふうに感じております。以上です。

議 長 4番本山議員。

4番  
本山議員 地元の方からはですね、より地域に根差してですね、対策をしていただきたいということだろうというふうに思います。地域には地域ごとにですねそういう知見を持った方が多分おられると思います。その知見を持った方のいろいろな知識知恵をですね、効果的に活用していかないと、なかなか産業振興課だけ考えて対策をするというのなかなか難しいところだなというふうに思っております。そしてですね、現場の声に答えるためにはですね、具体的な打開策、短期的な捕獲等も視野に入れなければならないと思いますし、それが求められておることだと思いますけども、短期的な緊急的な捕獲の増強というのは、考えられたことありますか。

議 長 番外名原産業振興課長。

番外名原産業振興課長 短期的な捕獲といいますと、大規模な捕獲ということですかね。夜襲をかけるということも、一つ話にも出たりしましたけど、やはり特殊な資格もあつた夜間銃猟とかそういった特殊な資格もいったり危険性も増しますので、なかなか難しい面もあるのかなというふうに考えておりました、今効果的にということで、大型捕獲檻で効果的に捕獲するということを考えております。以上です。

議 長 4番本山議員。

4番  
本山議員 ちょっと踏み込んで言えばですね、狩猟は、今狩猟で生活をされておる方はおられない。趣味で狩猟をやっておられるというぐらいなことかなというふうには思っておるわけでございますが、それに対して有害鳥獣が出たから

4番  
本山議員 直ぐハンターが駆けつけて対策をしていただけるというような体制が、いつも整っているというふうには考えられません。私はもっと踏み込んで言いますとですね、町がですね、そのハンターを雇用するぐらいの思い切ったことも視野に入れながらですね、即効性のある対策・対応というものも考える必要があるんじゃないかなというふうに思うわけですが、どう思われますか。

議 長 番外名原産業振興課長。

番外名原産業振興課長 猟友会さんのお話にもなると思いますけども、直ちに今ハンターを雇ってということにはならないのかなと思っております。猟友会との駆除班を担っていただいておりますのでその話もございまして、町と致しましたらできればそういった鳥獣の専門員をですね、町に配置すればいいかなとは思いますが、今お隣にですね、県の普及部でございますので、こちらの有害鳥獣の専門員さんと連携を密にしながら、取り組んでおるといような状況でございます。以上です。

議 長 4番本山議員。

4番  
本山議員 ちょっとどう言っているんですかね、現場で作物をつくったり、そして庭で家庭菜園しとったり、庭で柿の木に実がなったり、いちじくがなったり、そういう生活をされておる中で、もう全ての柿が無くなったり、いちじくが無くなったり、そして作物が無くなったりというような、現場の緊迫したその状況に対する今の課長の答えだとですね、やっぱりちょっと、こうモヤモヤとした不満が残るわけですけども、たいへん難しい仕事でございますのでね、これ以上どうのこうの言うつもりはないんですけども、何とかですね、もうそういう方々の気持ちも、もうちょっと酌み取りながら、話し合いもしながら、やっていただければというふうに思います。もっと住民の皆様方と話をしながら、不満を吸収するぐらいの気持ちでやっていただきたいというふうに思います。

次にですね、有害鳥獣対策可能性実証事業でございますけども、今年の冬から檻を設置する等のことですが、今の進捗状況をちょっとお知らせください。

議 長 番外名原産業振興課長。

番外名原産業振興課長 今2群に対してGPSのほう装着してですね、誘導域を調査して行動域をですね解析しながら、どこに設置するかというところをこれから当たっていくというところ、段階でございます。今後はどちらに設置するかというところで、その土地使用者の協議もございまして、猟友会との捕獲後の体制、どういふふうな処理をしていくかっていうところも踏まえて、体制のほうつく

番外名原産  
業振興課長  
議 長

っていききたいというふうに考えております。以上です。

4番本山議員。

4番  
本山議員

今最終的な処分の方法まで言及されましたので、これ以上は言いませんけれども、よろしく願いをいたします。

最後になりますが、町長にお答えいただきたいと思います。町長は現在のですね、有害鳥獣対策をどのように評価されているのか、お聞きしたいというふうに思います。それに加えてですね、今後のこの鳥獣対策の対策効果を測定するためにですね、この成功指数というようなことを提案したいと私は思います。その指数に基づいて定期的な評価を行う体制づくり、そしてこれによって、遅延や効果のない対策に早期に気づいて軌道修正が可能となる、そういうことをお願いしたいと思っておりますけれども、町長の見解をお伺いいたします。

議 長

番外野坂町長。

番外  
野坂町長

町民の皆様からのですね、全ての町が行うですね、行政に対する私の付託の中でですね、最もあるいはその課題の中で解決シナリオがお示し出来ない事がまさにこの鳥獣対策でありますということですね、実は記憶を呼び起こしますと、前回もこのテーマでご質問いただいたときに、全く同じことをですね、申し上げざるを得ない状況でございますので、このことをですね、町民の皆様にはまずやっぱりお詫びを申し上げねばならない、それぐらいのが段階にある、この課題だとこのように感じております。今、議員がですね、ご提案もございました。私自身はですね、この課題もうこれはですね午前中にも述べましたことにも通じるかもしれませんが、やはりどうしたらできるか視点ですね掘り下げをですねやはり深掘りすべきであろうと。あと、これだけ情報化社会はしてますので、他市町の成功事例ですね、うちの町に照らしたら、あるいはそのうちの町の協力体制もしくはその猟友会ですね組織体制も含めてですね、全国同じような悩みを抱える自治体でですね、非常にその悩みの内容とですね、現実が近い自治体がやはりあるんじゃないかと思っております。今どきですね、いつも言いますが、以前はですね、そういう情報が手に入りませんでしたけれども、先ほどの帯状疱疹でも厚生労働審議会スッと入ればスッとくる動きも分かる、そういう段階にある私たちのですね、町の外側の環境がそうなってますので、ぜひそういう情報も入れながら今ですね手法の持ち方、何をもってその手法にするのかってのはまたご協議させていただきたいと思っておりますけれども、やはりなかなかその抜本的解決がつかない課題に対しては、短期でも中期でもある程度目標を設定してそこに向かってそれを検証しながらですね、ご提案ありましたようにその手法では駄目だとおっしゃる、こっちがあるみたいなですね、やはりそういうアプロ

番外 野坂町長	一十はとても大事だと思いますので、少しでもそういう動きがですね、実現 出来ますように、次にご質問いただいたときに冒頭同じようなことを言うこ とにならないように、私自身もどうすればできるか視点、さらに入り込んで 町民の皆様がですね、安心してそして心豊かに暮らせるようなことにつな がる解決策を少しでも見出せるように、しっかりと取り組んでまいります。
議 長	4 番本山議員。
4 番 本山議員	はい、ありがとうございます。ぜひですね、定期的な評価ができるような システムをつくっていただいて、効果のない、効果がある、そういうものを きちっと精査していただきたいというふうに思います。これから稼働します I C Tを活用した捕獲等、この評価システムの導入で効果ある対策が出来ま すように願っております。以上、質問を終わります。
議 長	以上で、2 項目めの「鳥獣被害に対する現行対策の進捗と地域実情の認識 について」の質問を終了します。
々	これをもちまして、本山議員の一般質問を終了します。
々	以上をもって、本日の議事日程は全て終了しました。
々	これをもちまして、本日は散会とします。お疲れさまでした。 (午後 4 時 1 0 分)

この会議録は、川本町議会事務局長 中 嶋 則 行 が記載したもので、その内容  
において、正確である旨を証するためここに署名をする。

川本町議会議長

川本町議会議員

川本町議会議員